

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

全国学力・学習状況調査の文科省標準化得点で国語(100)算数(100)以上

3.指標に向けての取組

(1) 授業力の向上と授業改善

- 1単位時間の中に、「かく活動」を位置付けた授業づくりの徹底
- 児童が書いたものを、学習の話し合い等に生かし、主体的・協働的につながる授業づくり

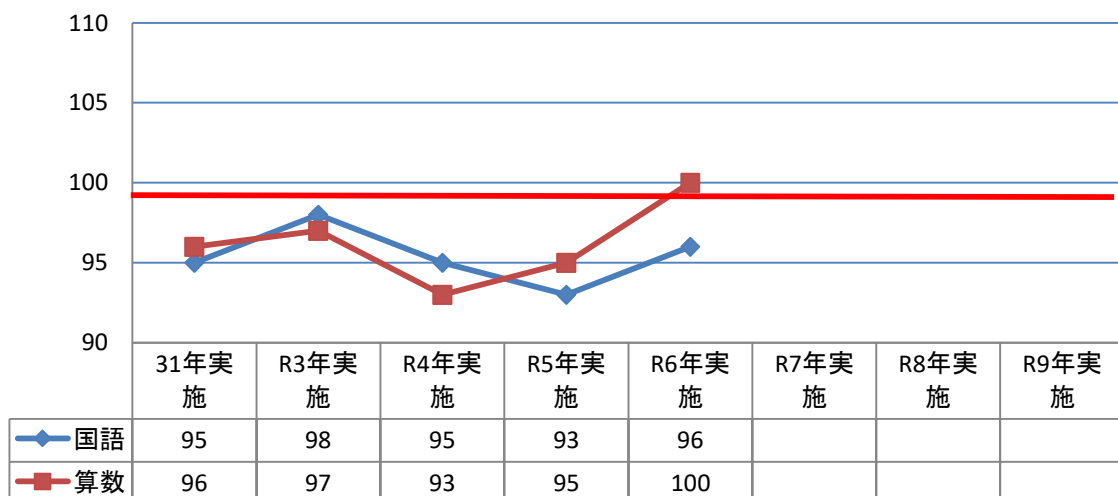
(2) 家庭学習の目的、内容の見直し

- 家庭学習の時間の分析と、その結果の共有
- ドリル等を活用した、家庭での反復学習の実施

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国 語	算 数
本校	96	100
嘉麻市	97	99
全国	100	100

推移



5.各学校における分析

【国語】「書くこと」は、問題に即した答えを選ぶ問の正答率は比較的高い数値を表している。しかし、自分の考えをかく、理由を述べる問いに対しては課題を残している。「漢字」の不正答率、無回答率共に高くなっている。資料と問題文を照らし合わせて読み取れていない割合が高い。問題全体を捉えることができていない。

【算数】「数と計算」は比較的高い数値を示し、基礎計算力が定着している。「図形」においては、名図形の見方、考え方を苦手としている。また、自分の考えを記述する設問では無回答が多く、正答率も低かった。

【要因】

- ①設問の内容を読み取れず、問題の意味を理解することが困難。
- ②自分の考えを伝える力を十分つけきれていない。
- ③繰り返し練習する機会や、話し合っって考えを練り合う機会が充分にとれていない。

6.各学校における今後の取組

★教員の指導力向上と授業改善

- ①資料と問題文を照らし合わせ、読み取る力をつける必要がある。読書習慣の定着を目指し、朝学習の音読の時間や週末の家庭学習課題に読書を取り入れる等、「読む力」「読解力」の向上をめざす。
- ②自分の考えを持たせる活動に取り組んでいく。
- ③漢字を日常生活に活用できるような練習の工夫。
- ④AIドリルを積極的に取り入れた授業形態、家庭学習での活用で学習の反復・補充を図る。
- ⑤学習の定着度を単元ごとに分析し、CD層の児童を明確にするとともに、学力向上委員会と担任、指導方法工夫改善教員・課題対応教員・学力アップ講師が連携し、習熟度別指導の工夫を行うことを通して、CD層の児童の確実な学習内容の定着を図る。
- ⑥一週間のうちに、一定時間を話し合い活動に割り当てた授業構成を展開する。

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、指導主事を派遣して校内研修で授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、AIドリルを活用した個に応じた家庭学習課題の推進を図る。

また、個に応じた学習課題の提示を進める各学校の取組を交流する場を設定する。

◆学力向上検証委員会を開催し、単元や学習のまとまりを単位とした学習状況の把握と個に応じた指導の工夫を推進する。そのために、各学校においてトリプル80の視点から評価を実施するとともに、学力向上検証委員会において、授業づくりや学力向上の取組に対する組織的な評価・改善の在り方について指導する。